

1 演題・講師 「職員の育成と資質向上につながる園経営」

浜松市秋野不矩美術館長 鈴木 英司 氏

2 講演

（1）経営者は、職員やこどもの心に明かりを灯しながら、
種をまく人でありたい

- ・自ら育とうとする者（こどもや職員）を育てずにはいられなくなる心『育ての心』により、こどもだけでなく保育者や親も育つことができる。またこどもを信頼・尊重することで、こどもの発達を育むことができる。

（2）これからの経営で意識したいこと

① 幼小接続、連携と接続の真の理解に向けて

- ・連携とは、同じ目的をもつ者が互いに連絡を取り合い、協力して物事を行うことをいう。接続とはつながることであり、リレーのバトンのように保育と教育をつなげていくことである。そして、こどもを軸にして同じ土俵で目指す教育のあり方に折り合いをつけ、幼小の共通理解の下、同じ目的をもって連携し、それぞれが育む力を理解し保育と教育を接続していくことが大切である。

② こどもを取り巻く家庭環境

- ・活動や行動に問題を見出した時、目の前の事象にとらわれるのではなく、個と個を取り巻く環境に課題が生じていると考え、周囲との関係性の中で改善していくよう、スモールステップの手立てが必要である。また、こどもや保護者の思いに寄り添い、自らの思いを言葉にして伝え、自己有用感を得られるようにしていくことが求められる。

③ これからの園長のリーダーシップ

- ・これからの園長のリーダーシップとは出来事だけでなく、そこから派生する物事を結び付けて考える視野の広さが求められる。また、職員が自ら考え判断できるよう、管理・指示型から、サーバントリーダーシップ（側面的支援）への意識をもつことも大切となる。

（3）なぜ、今、幼児教育が注目されているのか

- ① 架け橋プログラムの必要性を理解し、小学校と共通の視点で連携・接続し共に振り返り、評価・改善・発展させていく。園長や校長のリーダーシップの下、こどもの育ちを中心に据えた対話を通して相互理解・実践を深めていくことが大切である。
- ② 園や小中学校の日々の遊びや授業、生活の中で、他者と共に生き、主体的に判断し、新たな価値を生み出していく力を育成することが重要である。幼児期に育まれた非認知能力は、大人になっても失われない。『正解』ではなく、こどもなりの『最適解』を求め続ける力の育成が重要である。
- ③ SEL（非認知能力によって育成される能力）により、責任ある意思決定、自己認識と自己規律、他者への気付きと対人関係が身に付く。こどもへの『共感力』が、指導者に最も求められる力である。

（4）人材育成と経営の充実に向けて



① 幼小共通の視点で連携・接続できること ～遊びや学びの場面での声掛け～

- ・ こどもの行動への気付きと見取りに対し、意味付けや価値付けをこどもにどう返すかが重要となる。同時に、教師自身が豊かな心を持ち、こどもに保育者の見えない気持ち（心）を伝えることが重要である。

② 環境整備・指導者側の基本的な構え ～共通の視点で連携・接続できること～

- ・ 最も大切なことは、安心できる環境を整えることである。こどもは自分を認め、味方となってくれる安心できる存在がいることで、強い心が生まれる。その存在が園長や主任でありたい。
- ・ 今、教師に求められる力は『Empathy（共感力）』である。自分事として受け止め、相手の意図や心情を汲むことで分断を回避し、建設的な解決策を生みだすことが可能となる。職員に対しても同様である。

（５）終わりに…園長はこどもと職員にとって『太陽』である

- ・ 大人でもどこか必ず欠如がある。それを他者が支えている。そのことに感謝しながら職員やこどもたちを支え、共に成長し、大きな喜びをもたらす園経営に努めたい。